

開講科目名 / Course	老年看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本科目の目的は、身体的、心理的、社会的側面における加齢変化や認知機能障害をもつ模擬高齢者の情報をアセスメントし、健康課題を検討しながら看護援助を実践することである。また、事例に関する議論や高齢者疑似体験、技術演習を通じて、看護援助の創意工夫や看護実践力の向上を目指す。さらに、社会資源や多職種連携を考慮した看護援助の方法についても検討し、高齢者に対するケア実践の理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者事例の情報をアセスメントし健康課題が説明できる。 2. 高齢者事例に必要な看護援助が安全に実施できる。 3. 高齢者事例に必要な社会資源と多職種連携について述べるができる。 4. グループ活動内で協働ができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探求心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 演習ガイダンス、高齢者の身体・認知機能のアセスメントについて復習、課題の情報確認 02. 実践演習オリエンテーション、実践演習に関連する知識の確認 03. 課題事例について情報のアセスメント 04. 実践演習（高齢者疑似体験、創傷ケア、経鼻経管栄養） 05. 課題事例について情報のアセスメント：全体討議 06. 実践演習（高齢者疑似体験、創傷ケア、経鼻経管栄養） 07. 社会資源と多職種連携（施設訪問）オリエンテーション、課題事例について援助の方向性検討 08. 実践演習（高齢者疑似体験、創傷ケア、経鼻経管栄養） 09. 社会資源と多職種連携（施設訪問） 10. 社会資源と多職種連携（施設訪問） 11. 社会資源と多職種連携（施設訪問） 12. 社会資源と多職種連携：講義、全体討議 13. 課題事例について援助の方向性検討 14. 課題事例について援助の方向性検討：全体討議、看護援助の評価と修正、経過記録について 15. 高齢者の看護援助まとめ 	
その他の授業の工夫	学生間でのグループディスカッションによってアセスメントや技術の習得を深めます。	
時間外学修	事前学修：各授業範囲の内容はテキストで予習をする（2h）。技術練習の事前学習をする（2h）。事後学修：課題レポートをまとめる（8h）。	
評価方法と評価割合	実践演習の実技・参加姿勢及びレポート（40%） 課題事例に関する個人レポート（50%） 全体討議、施設訪問参加姿勢（10%）	
テキスト	系統看護学講座 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論、老年看護学援助論、 を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	病院での老年看護経験を活かし、具体的な症例を通じて、高齢者特有の疾患やケア方法、多職種連携の重要性を教育する。実務に基づく教育を通じて、学生が自信を持って実践で直面する課題に対応できるための支援を行う。	